

夏目漱石論

森鷗外

青空文庫

一、今日の地位に至れる径路

政略と云うようなものがあるかどうか知らない。漱石君が今の地位は、彼の地位としては、低きに過ぎても高きに過ぎないことは明白である。然れば今の地位に漱石君がするには、何の政策を弄するにも及ばなかつたと信ずる。

二、社交上の漱石

二度ばかり逢つたばかりであるが、立派な紳士であると思う。

三、門下生に対する態度

門下生と云うような人物で僕の知て居るのは、森田草平君一人である。師弟の間は情誼が極めて濃厚であると思う。物集氏とかの二女史に対して薄いとかなんとか云うものがあ

るようだが、その二女史はどんな人か知らない。随つて何とも云われぬ。

四、貨殖に汲汲たりとは真乎

漱石君の家を訪問したこともなく、またそれについて人の話を聞いたこともない。貨殖なんと云つた処ところで、余り金持になつていそうには思われぬ。

五、家庭の主人としての漱石

前条の通りの次第だから、その家庭をも知らない。

六、党派の野心ありや

党派という程のものがあるかどうか知らない。前に云つた草平君の間柄だけなら、党派などと大袈裟おおげさに云うべきではあるまい。

七、朝日新聞に拠れる態度

朝日新聞の文芸欄にはいかにも一種の決まった調子がある。その調子は党派的态度とも言えば言われよう。スバルや三田文学がそろそろ退治られそうな模様である。しかしそれはこの新聞には限らない。生存競争が生物学上の自然の現象なら、これも自然の現象であろう。

八、創作家としての伎倆

少し読んだばかりである。しかし立派な伎倆だと認める。

九、創作に現れたる人生観

もつと沢山読まなくては判断がしにくい。

十、その長所と短所

今まで読んだところでは長所が沢山目に附いて、短所と云う程のものは目に附かない。

(明治四十三年七月)

青空文庫情報

底本：「歴史其儘と歴史離れ 森鷗外全集」ちくま文庫、筑摩書房

1996（平成8）年8月22日第1刷発行

底本の親本：「筑摩全集類聚版森鷗外全集」筑摩書房

1971（昭和46）年4月～9月

入力：大田一

校正：noriko saito

2005年8月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

夏目漱石論

森鷗外

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>